

令和4年度

未来の学び通信



No.1 令和4年(2022年)9月22日発行
発行：函館市教育委員会学校教育部
教育政策推進室教育政策課TEL: 21-3523
gakko-keikaku@city.hakodate.hokkaido.jp

学習用端末を活用した「学習支援ドリル（ドリルパーク）」の活用について

全ての市立中学校、義務教育学校（後期課程）の生徒を対象に、今年6月に導入した学習支援ドリル（ドリルパーク）ですが、導入から3か月が経ちました。



ドリルパークとは

- ・在籍学年の問題だけではなく、下学年の問題にも取り組むことができます。
- ・複数選択問題、分類問題、並べ替え問題、キーパッド問題など、様々な問題形式があります。
- ・ヒントや解き直し、手書きメモ、取組状況の記録・確認などの機能があります。



学校での活用状況はいかがですか？

今回は、ドリルパークの活用例を紹介します。各学校での取組の参考にしてみてください。

ドリルパーク（生徒用）の活用例

朝学習の活用

帯時間など、短時間で効率的な学習を進めるために活用します。

授業中の活用①

授業の冒頭での前時の振り返りや、授業のまとめでの本時の確認に活用します。

授業中の活用②

「学習探検ナビ」アプリのデジタル教材を活用し、生徒の興味・関心を引き出します。

家庭学習の活用

学習用端末に宿題を配信することができます。また、学習用端末で、学習プリントのPDFデータを持ち帰ることができます。

ドリルパーク（教師用）の活用例

授業中の活用①

「進捗確認」からドリルに取り組んでいる生徒の状況（進捗、正誤）をリアルタイムで把握し、その場での指導に生かします。

授業中の活用②

生徒のメモ（途中計算など）や学習履歴を把握し、事後指導に生かします。

放課後の活用①

「学習履歴」や「カルテ」アプリから生徒の詳細な学習状況を把握し、つまづきの原因や課題分析に活用します。

放課後の活用②

学校独自にドリルを作成し、授業や家庭学習に活用することができます。

詳しくは、7月26日に行った「初心者向け『ドリルパーク先生機能操作研修会』」の資料や『ミライシード』ホームページでご確認ください。

<活用状況の確認>

生徒の活用状況は、「カルテ」アプリや「学習履歴」から確認することができます。

自校の状況を確認し、生徒がどの程度活用しているかを把握することは大切なことです。活用が少ない生徒に対しては、使用方法について改めて説明するなど、積極的な使用を促し、学習状況の振り返りや学習内容の定着に活用できるようにしましょう！

なお、生徒の個人情報については、取扱いにご注意ください。

